

1 各教科の学力・学習状況調査の考察について

○国語科

- ・漢字や言葉などの基本的な学習に関する問題については、正答率が高い。
- ・文章や図表を適切に読み取り、必要な情報を結び付け、その理由を記述で答える問題については、正答率が低い。

○算数科

- ・基本的な計算方法や、数を使って正しい答えを導き出す問題については、正答率が高い。
- ・グラフなどの資料を適切に読み取り、言葉や数を用いて記述で答える問題については、正答率が低い。

○理科

- ・既習で学んだ実験などをもとにした問題については、実験の内容を理解していることから、比較的正確率が高い。
- ・「地球」を柱とする領域の問題については、正確率が高く、「エネルギー」「生命」を柱とする領域の問題については、正確率が低い。
- ・実験結果から差異点や共通点について考え、記述で答える問題については、正確率が低い。

2 児童質問調査の考察について

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という質問に対して、約90%の児童が地域に役立ちたいという思いをもっている。主な理由として、児童が地域の行事に積極的に参加したり、家庭と地域が連携した授業や体験活動を行ったりしていることが考えられる。
- 「新聞を読んでいるか」、「読書は好きか」の質問に対して、他の項目に比べて低い傾向であった。児童は、タブレットやゲーム機器等を活用して、情報を集めることが多くなっていることから新聞や読書離れが進んでいることが考えられる。

3 今後の本校の取組について

- 8時00分～8時10分を活用した取組を継続的に行う。朝自習として、読書や漢字・計算等の問題に取り組む。
- 学校全体で学期に1回、校内漢字・計算テストを行い、学習意欲の向上と基礎・基本の定着を図る。
- 主体的・対話的で深い学びの授業実現に向けて、より一層の教材研究や授業改善などを進める。
- 各学年に応じた「読む力や書く力を高める取組」や「基礎学力を高める取組」を実施する。(音読・暗唱・視写・読み上げ計算など)
- 国語の授業実践については、意見文や物語文など様々な形の文章を書く学習を行う。他教科では、調べたことや考えたことを、タブレット端末を活用し、プレゼンテーション資料にまとめ、発表する学習を行う。
- 算数の授業実践では、電子黒板とデジタル教科書を活用し、問題を視覚的に捉えやすくする。単元に応じて、自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えを書き、発表する学習を充実させる。
- 家庭学習の習慣化を図るため、発達段階に応じた家庭学習カードを活用する。自学(学年×10分)の取組を奨励する。
- 図書委員会を中心に「図書祭り」を実施する。読み聞かせやクイズ、児童によるおすすめの本の紹介などを行う。また、図書館司書による読書の環境整備として、季節ごとのおすすめの本の掲示、図書だよりの発行などを行い、読書活動の推進を図る。